

第43回内分泌糖尿病心理行動研究会(Web型研修会)

日時 : 2026年3月1日 (日) 13:00~17:10

会場 : オンライン (Zoom)

テーマ : 「療養指導を進化させるAIとコミュニケーション」

開会の挨拶(13:00~13:05) 大西 俊一郎 (国際医療福祉大学医学部糖尿病・代謝・内分泌内科 講師)

講演1(13:05~13:45) 座長 大津 成之 (中野島糖尿病クリニック 院長)

演者 坂入 洋右 (常葉大学 教育学部 心理教育学科 教授)

「新しい時代の糖尿病患者支援:情報科学に基づく患者主体の全人的アプローチ」

講演2(13:45~14:25) 座長 深尾 篤嗣 (茨木市保健医療センター 所長)

演者 桐山 加奈子 (千葉大学医学部附属病院 総合医療教育研修センター)

「AIが情報を扱う時代に:表現としてのナラティブが拓くケアとエンパワメント」 特任助教)

症例発表1(14:30~14:50) 座長 橋本 祐子 (那須中央病院)

演者 椎木 洋子 (東大阪病院 リハビリテーション部 部長)

「AI活用は“無理”から始まった —コーチングセンスが拓いた可能性

～療養指導の現場に拓けるリハ・栄養・口腔連携～」

症例発表2(14:50~15:10) 座長 橋本 祐子 (那須中央病院)

演者 山本 美保 (いしが城谷クリニック非常勤講師、Newとらる co.代表)

「メタボ対策・生活習慣の改善 AIによるコーチング的関わりが有用であった症例

～糖尿病療養指導に役立つヒント」

講演3(15:10~16:20) 座長 山本 美保 (いしが城谷クリニック非常勤講師、Newとらる co.代表)

演者 岸 英光 (いしが城谷クリニック非常勤講師、

コミュニケーショントレーニングネットワーク®統括責任者、岸事務所代表)

「糖尿病療養指導に機能するパラダイムシフトコミュニケーション(コーチングも踏まえて)」

講演4(16:25~17:05) 座長 大西 俊一郎 (国際医療福祉大学医学部糖尿病・代謝・内分泌内科 講師)

演者 田丸 司 (偕行会リハビリテーション病院 病院長)

「AIと学ぶ臨床コーチング(糖尿病への療養指導例を含めて)」

閉会の挨拶(17:05~17:10) 山崎 真裕 (京都第二赤十字病院代謝内分泌内科 部長)

参加登録方法・参加費・お問い合わせ先

下記Peatixより申し込みください。

<https://43th-endo-diabetes-psycho.peatix.com/view>

申し込み期限: 2026年2月28日(土) 12:00 ・ 参加費: 2,000円

問い合わせ先: shun_ons@yahoo.co.jp

大西 俊一郎 (国際医療福祉大学医学部糖尿病・代謝・内分泌内科)



日本糖尿病療養指導士(CDE-J)並びに地域糖尿病療養指導士(栃木、千葉、滋賀

福岡、北九州、筑後、筑豊、佐賀、大分、長崎、熊本、宮崎、沖縄)の認定は申請中です。

(CDE-Jの単位認定について①講演2は研修時間に含まれません ②研修開始時・研修途中・終了時の3回それぞれ異なるキーワードを発信しますので、開催当日中に全てのキーワードを正しく提出した受講者に参加証を発行します)

日本心身医学会(3単位)および日本心療内科学会認定(2回参加で2単位)取得できます。

抄録

講演1 坂入 洋右

「新しい時代の糖尿病患者支援：情報科学に基づく患者主体の全人的アプローチ」

糖尿病の予防や療養指導のように個別性と継続性が重要となる支援では患者主体の取り組みが不可欠です。ICT(外的情報)と自律訓練法(内的情報)を活用した、新しい時代の患者支援のあり方について考察します。

講演2 桐山 加奈子

「AIが情報を扱う時代に：表現としてのナラティブが拓くケアとエンパワメント」

語りとは、単なる情報源でなく、病いの経験を再構築しうる「表現」です。その語りに耳を澄ますことは、医療者と患者双方に気づきと関係性の変化をもたらし、深いケアとエンパワメントをひらきます。米国ナラティブ・メディシンの理念と実践法を紹介します。

症例発表1 椎木 洋子

「AI活用は“無理”から始まった —コーチングセンスが拓いた可能性 ～療養指導の現場に拓けるリハ・栄養・口腔連携～」

自分には“無理”としていたAI活用で、業務効率化と多職種協働を実現、リハ栄養口腔連携体制加算を取得。個別リハ対象でない糖尿病患者の療養支援にも関与可能な体制を創ることができた体験をご紹介いたします。

症例発表2 山本 美保

「メタボ対策・生活習慣の改善 AIによるコーチング的関わりが有用であった症例 ～糖尿病療養指導に役立つヒント」

今まで「ダイエット」しか興味がなく何年も痩せなかつた人がようやく痩せ、血液検査の数値も改善して「健康」への意識変容が起きた事例で、糖尿病療養指導に役立つAIとコーチングの活用をご紹介いたします。

講演3 岸 英光

「糖尿病療養指導に機能するパラダイムシフトコミュニケーション（コーチングも踏まえて）」

パラダイムシフトコミュニケーション（コーチング含む）が、糖尿病療養指導における患者への関わり方で、患者の信頼を得て行動を引き出したり、医療チームに役立つコミュニケーションのあり方をお伝えします。

講演4 田丸 司

「AIと学ぶ臨床コーチング（糖尿病への療養指導例を含めて）」

文書生成AIの活用としては、コミュニケーション支援が挙げられ、臨床コーチング研究会として検討中です。AIの支援により臨床コーチングの訓練および評価に応用し、糖尿病の療養指導などの検討例について報告します。

代表世話人： 波多 伴和（九州大学大学院医学研究院心身医学）

世話人： 深尾 篤嗣（茨木市保健医療センター）

大津 成之（中野島糖尿病クリニック）

大西 俊一郎（国際医療福祉大学病院 糖尿病・代謝・内分泌内科）

橋本 祐子（那須中央病院）

山本 美保（いしが城谷クリニック, Newとらる co.）